

自己評価報告書

平成23年 4月22日現在

機関番号：14301

研究種目：若手研究 (B)

研究期間：2008～2011

課題番号：20730427

研究課題名 (和文) 認識論的メタ認知と批判的思考の関連性に関する文化比較研究

研究課題名 (英文) A CROSS-CULTURAL STUDY ON THE RELATIONSHIP BETWEEN EPISTEMIC METACOGNITION AND CRITICAL THINKING

研究代表者

C・F MOISES KIRK (C・F モイゼス キルク)

京都大学・教育学研究科・研究員

研究者番号：50467411

研究分野：認知教育心理学

科研費の分科・細目：心理学、教育心理学

キーワード：メタ認知、認識論、学習過程、文化比較

1. 研究計画の概要

先行研究によると、批判的思考は、認知、態度、およびスキルの3つの側面から構成される。この批判的思考や批判的思考をする者の特徴には、様々なメタ認知的機能が含まれることが明らかとなっているが、現在研究されているメタ認知は、それらすべての機能を網羅しているわけではない。また、従来のメタ認知研究では、主に記述的で一時的な信念のみが研究されており、知識や学習に関する規範的で持続的な信念（個人の認識論）は含まれてこなかったため、批判的思考との関連については、未だあいまいな部分が残されている。

以上のことをふまえて、個人の認識論をメタ認知に組み込んで検討した Carvalho・楠見 (2006) は、「認識論的メタ認知」として、日本の大学生に適合するモデル、すなわち、「認知の制御」「認知に関する知識」「知識構成における責任感」「知性に関する理論」の4因子構造の理論モデルを提出している。

本研究では、Carvalho・楠見 (2006) の議論を一步進めて、認識論的メタ認知がどのように批判的思考と関連しているのかを検討することを主な目的とする。そして、異文化間にその関連性に一貫性があるかどうかを検討するため国際比較研究を行う。

2. 研究の進捗状況

本研究は、以下のように、5つの研究から構成されるが、現在のところ、当初の予定通り、研究4まで進めている。研究1ではCarvalho・楠見 (2006) の4要因構造認識論的メタ認知モデルの適合性を再検討した。研究2では日本の大学生を対象に認識論的

メタ認知がどのように批判的思考と関連しているのかを検討した。研究3では、日本とフィリピンの大学生において、国際比較を行うため、フィリピンの大学に所属する文学系の大学生を対象にデータ収集を行った。研究4では、国際比較を一步進め、ブラジルの大学に所属する文系の大学生を対象としてデータ収集を行った。

今後は、研究5として認識論メタ認知と批判的思考が、学生の用いる学習方略とテストの成績の影響を検討する予定である。

3. 現在までの達成度

①当初の計画どおりに進展している。

当初の計画では日本・フィリピン・アメリカの大学生を対象に調査を実施する予定であった。しかし、アメリカの大学においてデータ収集を行うことができなくなったため、データの収集先をブラジルの大学に変更した。この変更は当初から予想されたので、大勢に影響はない。

4. 今後の研究の推進方策

(1) 今後は、各国の大学生を対象に、認識論メタ認知と批判的思考が、学生の用いる学習方略とテストの成績にどのような影響を及ぼすのかを検討する予定である。

5. 代表的な研究成果

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計4件)

- ① Carvalho F. M. K., メタ記憶と社会・文化, 「メタ記憶－記憶のモニタリングとコントロールメタ記憶－記憶のモニタリングとコントロール」, 137-152, (2009), **査読有**
- ② Carvalho F. M. K., Metacognitive judgments in a naturalistic setting: Monitoring performance in classroom tests, *International Journal of Psychology*, 44, 93-108, (2009), **査読有**
- ③ Carvalho F. M. K., Assessing changes in performance and monitoring processes in individual and collaborative tests according to students' metacognitive skills, *European Journal of Cognitive Psychology*, 22, 1107-1136, (2010), **査読有**
- ④ Carvalho F. M. K., メタ認知の多面性: 学習過程におけるモニタリングと制御, 「心理学研究の新世紀」第3巻「発達・教育心理学」, (印刷中), **査読有**

[学会発表] (計6件)

- ① Carvalho F. M. K., Improving metacognitive monitoring and regulation by means of collaborative tests, 29th International Congress of Psychology (ICP), (2008)
- ② Carvalho F. M. K., テストのモニタリングの判断基準に関する短期縦断的研究, 日本教育心理学会第50回大会, (2008)
- ③ Carvalho F. M. K., Assessing students' confidence judgments during tests, 11th European Congress of Psychology (ECP), (2009)
- ④ Carvalho F. M. K., 認識論的メタ認知と批判的思考の関連, 日本教育心理学会第51回大会, (2009)
- ⑤ Carvalho F. M. K., The state of affairs of psychological testing in Japan, 27th International Congress of Applied Psychology, (2010)
- ⑥ Carvalho F. M. K., What students use as a basis for their confidence judgments during tests?, 27th British Psychological Society Cognitive Section Annual Conference, (2010)